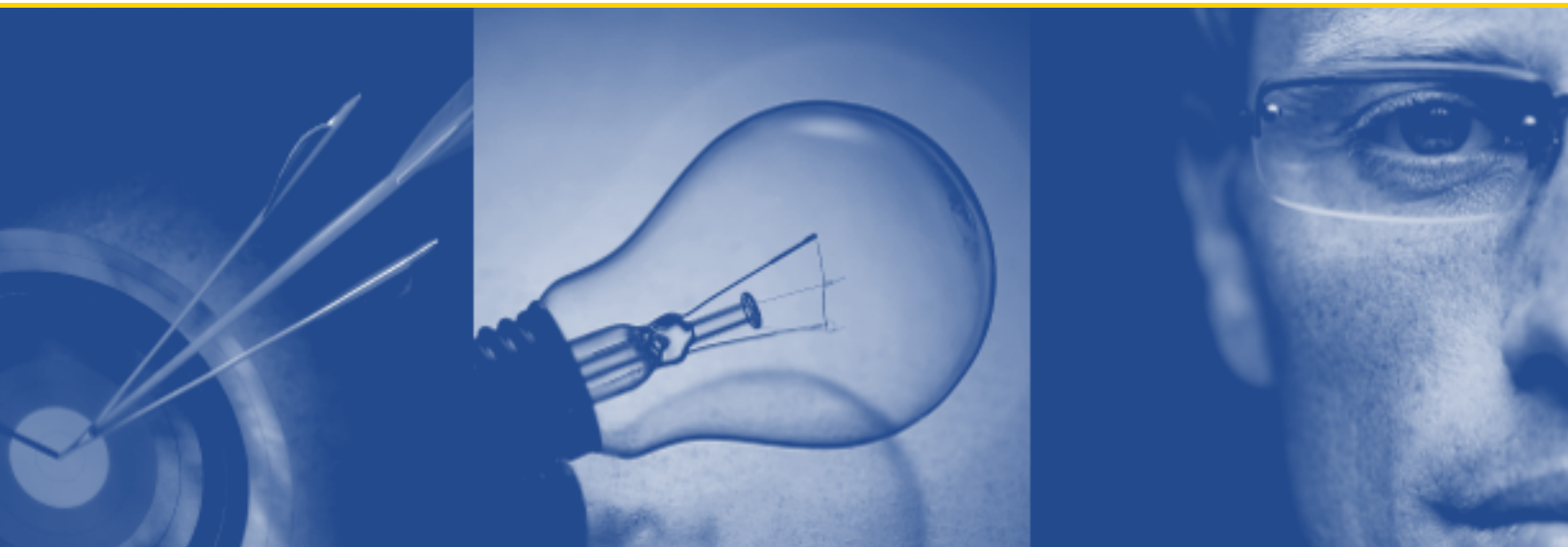


MessageStats™ 6.1.1

クイックスタートガイド



© 2007 Quest Software, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

このガイドは著作権により保護された専有情報を含んでいます。このガイドで説明されているソフトウェアはソフトウェアライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。このソフトウェアは、適用される契約の条項に準拠している場合のみ使用またはコピーできます。このガイドのいかなる部分も、電氣的または機械的、写真複写、録音、その他いかなる形においても購入者の個人的な使用以外の目的で Quest Software, Inc. による書面の許可なしに複製または送信することを禁じます。

本書の使用の可能性に関するお問い合わせについては、

Quest Software World Headquarters
LEGAL Dept
5 Polaris Way
Aliso Viejo, CA 92656
USA
www.quest.com
電子メール : legal@quest.com
電話 : 949.754.8000

地域または国際オフィスの場合は弊社の Web サイトをご参照ください。

商標

Quest、Quest Software、Quest Software ロゴ、Aelita、Benchmark Factory、Big Brother、DataFactory、DeployDirector、ERDisk、Fastlane、Final、Foglight、Funnel Web、I/Watch、Imceda、InLook、InTrust、IT Dad、JClass、JProbe、LeccoTech、LiveReorg、NBSpool、NetBase、PerformaSure、PL/Vision、Quest Central、RAPS、SharePlex、Sitraka、SmartAlarm、Speed Change Manager、Speed Coefficient、Spotlight、SQL Firewall、SQL Impact、SQL LiteSpeed、SQL Navigator、SQLab、SQLab Tuner、SQLab Xpert、SQLGuardian、SQLProtector、SQL Watch、Stat、Stat!、Toad、T.O.A.D.、Tag and Follow、Vintela、Virtual DBA、XRT は Quest Software, Inc. の商標および登録商標です。

免責事項

本書に含まれる情報は Quest 製品に関して提供されます。如何なる知的財産権に対する明示、黙示、禁反言またはその他のライセンスも本書により、または Quest 製品の販売に関連して付与されるものではありません。本製品のライセンス契約に明記された QUEST の契約条件に規定されたものを除き、QUEST はその製品に関連する如何なる責任も負うものではなく、また明示、黙示あるいは法定の保証を否認します。これには、商業性、特定用途への適合性、または権利の非侵害を含み、これらに限定されない黙示の保証が含まれます。QUEST は如何なる場合にも、本書の使用または使用の不能により生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特殊的または付随的損害（利益の損失、業務の中断、情報の紛失を含み、これらに限定されない損害）に対して、かかる損害の可能性を通知されていた場合にも、責任を負いません。Quest は本書の内容の正確さや完全性に関して如何なる表明または保証を行うものではなく、また、仕様および製品説明を予告なく随時変更する権利を保有します。Quest は本書に含まれる情報を更新することを確約しません。

MessageStats クイックスタートガイド
更新日 : 2007 年 8 月
ソフトウェアバージョン : 6.1.1

目次

このガイドについて	5
表記規則	5
クイックスタートガイドの概要	6
Quest Software について	7
Quest Software お問い合わせ先	7
Quest サポートへの連絡	7
Quest MessageStats を理解する	8
MessageStats のアーキテクチャ	9
ビジネス上の問題	11
ソリューション	11
概念的な全体の流れ	12
Quest MessageStats のインストール	13
サポートされる環境	13
最良事例	13
インストールのタイプ	14
最小システム必要条件	14
アクセス権限とアクセス許可	15
Quest MessageStats の起動	20
完全インストールの実行	21
MessageStats ライセンス	24
MessageStats のアップグレード	24
Quest MessageStats の実行	26

MessageStats の削除.....	27
MessageStats の使用.....	27
段階的な説明.....	28
付録 A: Microsoft.NET 構成の問題点.....	29
64 ビットオペレーティングシステムでのレポートの実行.....	30




このガイドについて

このマニュアルは、Quest MessageStats を理解していただくための補助として作成されました。クイックスタートガイドには、Quest MessageStats のインストールと使用開始するのに必要な情報が含まれています。ネットワーク管理者、Exchange 管理者、コンサルタント、アナリスト、そして製品を検査するその他全ての IT 専門家を対象としています。

複雑なインストールシナリオに関しては、インストール CD で利用できる MessageStats 管理者ガイドを参照してください。

表記規則

このガイドを最大限に活用できるように次の表記規則を使用しています。この規則は、手順説明、アイコン、キーボード操作、および相互参照を対象としたものです。

要素	表記規則
選択します	ファイルやラジオ ボタンなどさまざまなインターフェイス要素の選択や強調表示といった動作を表します。
太字テキスト	メニューやコマンドなど、Quest 製品で表示されるインターフェイス要素です。
<i>斜体テキスト</i>	コメントに使用されます。
<i>太字斜体テキスト</i>	強調に使用されます。
青色テキスト	クロス リファレンスを表します。Adobe® Reader® で表示する場合に、この形式はハイパーリンクとして使用されます。
	説明しているプロセスに関連のある追加情報をハイライトします。
	最良事例情報の提供に使用されます。最良事例では、最適な結果を得るために推奨される一連の操作の詳細を説明します。
	操作上の注意が必要なプロセスをハイライトします。
+	2 つのキー操作の間に正符号 (+) がある場合は、2 つのキーを同時に押す必要があることを示します。
	要素の間に縦の棒マークがある場合はその特定のシーケンスで要素の選択を行う必要があります。

クイックスタートガイドの概要

クイックスタートガイドは、Quest MessageStats マニュアル 1 式に含まれています。MessageStats コンポーネントのインストール、タスクの作成、データ収集の実行と初期化に必要な情報を提供します。

Quest MessageStats を理解する

クイックスタートガイドでは、MessageStats のアーキテクチャと機能に関する概要を提供します。このガイドは、MessageStats がインストールされ、プロダクション Exchange 組織で使用される場合に MessageStats 管理者が管理する機能を理解していただくことを目的としています。

MessageStats のインストール

クイックスタートガイドはハードウェアおよびソフトウェアの最小必要条件、および評価、実験用実装、または小さな環境に MessageStats をインストールするのに必要なアクセス権限を提供します。この実装は一番簡単なインストールで、デフォルトデータ収集から生成されたレポートを確認することができます。

環境で初期的なインストールを理解しましたら、配布されたインストールモデルを確認して、プロダクションインストールを複数のコンピュータに配置するかどうかを決定します。MessageStats 実装の規模に関しては、*Quest MessageStats 管理者ガイド*を参照してください。

MessageStats の使用

完全インストールで、MessageStats コンソール、MessageStats データベース、および MessageStats レポートコンポーネントは 1 つのローカルサーバーにインストールされます。クイックスタートガイドでは、MessageStats データベースにデータを置き、MessageStats レポートにコンテンツを提供するデフォルトタスクを作成するための基本的な手順を提供します。

基本的なタスクの作成を理解したら、*Quest MessageStats 管理者ガイド*を参照して収集とレポートのニーズに最適な MessageStats 機能を構成するための概念情報と手順を理解してください。

その他の情報

MessageStats マニュアル 1 式には次のマニュアルが含まれています。

- 最小インストール必要条件と既に確認されている問題を説明している *リリースノート*。
- 複雑なカスタムインストールと配置の説明、MessageStats 構成手順、および概念および手順情報を説明している *MessageStats 管理者ガイド*。
- MessageStats レポートインターフェイスと利用可能なレポートを詳しく説明している *MessageStats レポート ユーザーガイド*。
- MessageStats コンソールを使用する状況に応じたヘルプの *オンラインヘルプ*。
- MessageStats レポートインターフェイスを使用するヘルプの *レポートオンラインヘルプ*。
- 各 MessageStats レポート ページからアクセスできる *レポートページの状況に応じたヘルプ*。

Quest Software について

Quest Software, Inc. はご使用のアプリケーション、データベース、および Windows インフラから性能や生産性をより高めることができる革新的な製品を提供します。IT オペレーションの深い知識とより良く効果を発揮させるためのたゆまない努力によって、Quest は世界各国の 18,000 以上の IT エンタープライズのお客様の高度な要求にお答えしています。Quest の Windows Management ソリューションは Active Directory、Exchange、および Windows を簡単に自動的に保護すると同時に Unix および Linux を管理される環境に組み込みます。Quest Software の地域事業所に関しては、www.quest.com を参照してください。

Quest Software お問い合わせ先

電話	949.754.8000 (米国およびカナダ)
電子メール	info@quest.com
住所	クエスト・ソフトウェア株式会社 〒168-0806 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NS ビル 6 階
Web サイト	www.quest.com

地域またはインターナショナルオフィスに関しては弊社の Web サイトをご参照ください。

Quest サポートへの連絡

Quest サポートは、Quest 製品のトライアル版を使用されている方や製品版を購入しメンテナンス契約をされている方が利用することができます。Quest サポートは、当社 Web の SupportLink でいつでもご利用いただけます。<http://support.quest.com> の SupportLink にアクセスしてください。

SupportLink では、次を提供しています。

- 多数のソリューションを素早く検索 (サポート技術情報の記事 / 文書)。
- パッチやアップデートのダウンロード。
- サポート技術者からの援護。
- ログとアップデート、およびステータスの確認。

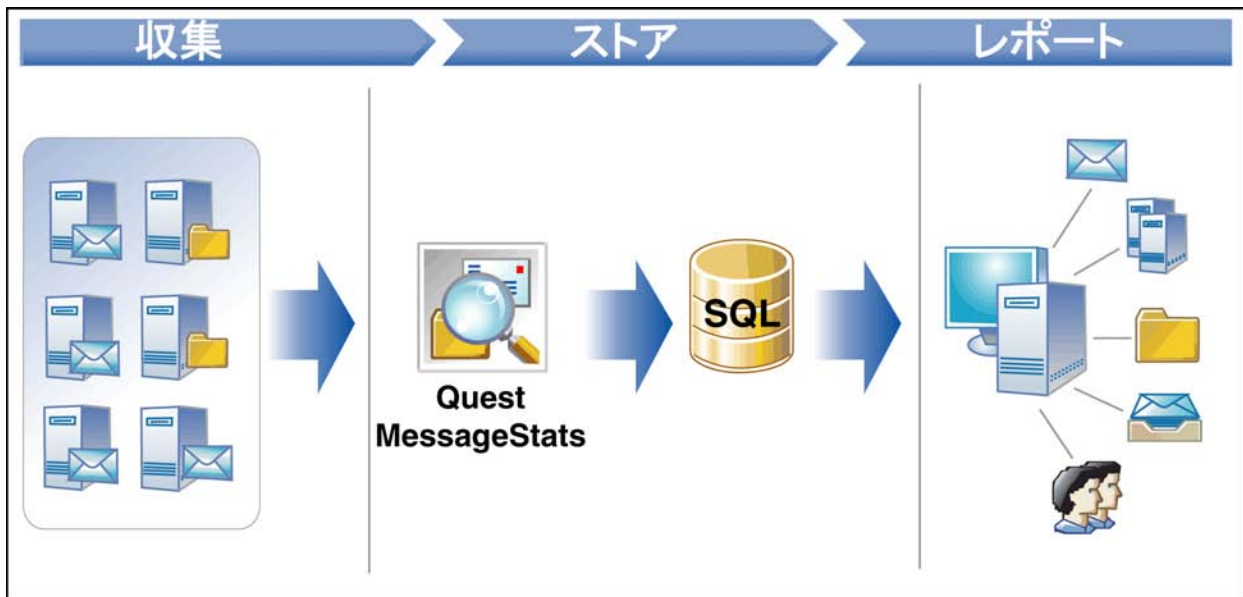
サポートプログラム、オンラインサービス、連絡情報、ポリシー、および手続きに関する詳細は、グローバルサポートガイドを参照してください。このガイドは、[http://support.quest.com/pdfs/Global Support Guide.pdf](http://support.quest.com/pdfs/Global%20Support%20Guide.pdf) から入手できます。

Quest MessageStats を理解する

Quest MessageStats は、大規模な Microsoft Exchange エンタープライズの利用状況統計の収集や分析を容易にする、データ収集およびレポート作成のアプリケーションです。MessageStats は、Exchange サーバー、管理グループやサイト、ルーティング グループ、ユーザー定義可能な部分のリストから Microsoft Exchange 追跡ログと Exchange オブジェクト利用状況を収集し、処理します。Web 基盤のレポートにコンテンツを提供するデータベースにその情報を保存します。

MessageStats レポートは、リソース利用状況、収納能力、ストレージ利用状況、監査メールボックスまたはドメイン、配信時間、配布リスト、パブリック フォルダ、および移行の準備に対する重要なメトリックスに関する要約と詳細情報を提供します。

次の図は、MessageStats ワークフローを説明しています。



MessageStats は大規模な Exchange エンタープライズ用に設計されており、ネイティブの Exchange 5.5、Exchange 2000、Exchange 2003、Exchange 2007 および混合モード環境を含む Exchange Server バージョンをシームレスに操作します。

MessageStats は大きなボリュームのデータを速く確実にコピーできるようにインテリジェントマルチスレッド方式を提供します。最新で有効なレポートを提供します。Exchange サーバーにエージェントを必要としない方式で MessageStats を構成することができます。MessageStats は、プロダクション Exchange 組織へのネットワークトラフィックの影響を知的に最小限にします。

MessageStats は次の 2 つのタイプの情報を収集します。

種類	説明
追跡ログ	Exchange サーバー上またはサーバー間で発生するイベントに関連するメッセージを追跡して Microsoft Exchange によって収集されたログファイル。
Exchange オブジェクト情報	Exchange サーバーによって提供される Exchange オブジェクト。 これらのオブジェクトには次のものが含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> • メールボックスとユーザー情報 • 電子メール対応オブジェクト • 配布リスト (Exchange 5.5 Server 用)、または電子メール機能を備えたグループ (Exchange 2000、Exchange 2003 または Exchange 2007 Server 用 Active Directory) • Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) ドメインおよび SMTP のアドレステンプレート • 内部名前空間 • パブリック フォルダ • カスタム受信者

追跡ログと Exchange オブジェクトから処理された情報は、ユーザー定義された期間の電子メールのフローとボリュームに関する情報を提供します。レポートコンシューマは、Web インターフェイスから MessageStats レポートを使用してレポートを表示または作成することができます。

MessageStats のアーキテクチャ

Quest MessageStats は次の 3 つのコンポーネントから構成されます。

コンポーネント	説明
MessageStats コンソール	統合サービスを持つ Microsoft Management Console (MMC) スナップインでは次のことが可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> • Exchange 組織への接続。 • サーバー、サイト、管理グループ、または地域の追跡ログとメールボックス情報を収集するタスクをスケジュール基盤で定義します。 • 領域と呼ばれるサーバーのビジネス固有の収集を作成します。領域は地理やビジネス単位に基づいてグループサーバーを収集したり、またはサーバー移行の総合モデルを作成するために使用することができます。
MessageStats データベース	収集されたデータを保存する SQL Server レポジトリ。レポートクエリで使用できます。
MessageStats レポート	MessageStats データベースにある収集されたデータを使用してレポートを表示したり分析できる Web ベースのインターフェイス。

MessageStats コンソール

MessageStats コンソールは Microsoft Management Console (MMC) のスナップインです。追跡ログとメールボックス統計の自動収集をスケジュールする収集タスクを作成することができます。MessageStats は、Microsoft Exchange 追跡ログと Exchange オブジェクト利用状況情報を Active Directory と Exchange サーバー、管理グループやサイト、ルーティンググループ、ユーザー定義領域のリストから収集して処理します。

MessageStats コンソール は次の 3 つのコンポーネントから構成されています。

- MessageStats コンソール MMC スナップイン
- MessageStats スケジューラサービス
- MessageStats タスクプロセッサ

MessageStats レポート

MessageStats レポートでは、動的な事前構成されたレポートのコレクションから利用状況統計を表示することができます。これらのレポートは、1 つの Exchange 組織または複数の Exchange 組織間でデータを表示するようにレポートをカスタマイズすることができます。ページのクイックフィルタを使用して対話形式で関連するレポートパラメータを変更することもできます。

また、MessageStats は、特定のレポートが使用できる受信者リストを毎日、毎週、毎月、四半期、および毎年で自動的に通知することができます。電子メール購読機能は同じ期間での利用状況の傾向を表示する機能を提供します。

MessageStats は、カスタムレポート機能を提供します。この機能を使用して、カスタムクエリを作成し、次に使用するために保存することができます。

MessageStats レポートの現在のリストの一覧は、*Quest MessageStats レポート ユーザーガイド*を参照してください。レポートによっては、デフォルトグループ順などのバリエーションがあります。各バリエーション内で、これらレポートのフィルタ、グループ、ソート条件を変更することができます。

Microsoft Exchange のサポート

MessageStats は、環境内の利用状況統計を特定の Exchange の実行に関係なく収集できるように Microsoft Exchange のインテリジェントエンタープライズ対応サポートを提供します。特に MessageStats は、大規模の Microsoft Exchange エンタープライズ実装用に次のサポートを提供します。

サポート	説明
サイト、管理グループ、およびサーバーの自動検出	MessageStats は Exchange 組織を分析してサイト、管理グループ、およびサーバーのバージョンを自動検出します。
サーバー、またはサイト / ルーティンググループの選択	Exchange 組織のサーバー、サイト、または管理グループを検索および選択することができます。カスタマイズされた領域を選択することもできます。
複数組織をサポート	MessageStats は別の Exchange 組織に表示およびレポートすることができます。テスト施設、先行導入、および複数の Exchange 組織の利用状況統計にプロダクション環境と同時にレポートすることができます。 注意: 複数の Exchange 組織が複数ドメインにオーバーレイするシナリオでは、Quest MessageStats が常駐するドメインと Quest MessageStats が関連されている各 Exchange 組織のドメイン間の双方向の信頼が必要です。これらの信頼は、Quest MessageStats 収集処理で使用される資格情報によって異なります。

サポート	説明
Exchange 環境をシームレスにサポート	MessageStats は、追跡ログファイルの場所、データベースストレージの場所、およびサイト / 管理グループトポロジに関連する詳細をシームレスに操作します。これによって、Exchange 5.5、Exchange 2000、Exchange 2003、または Exchange 2007 を含むネイティブまたは混合モード環境全体にレポートすることができます。
保存される追跡ログの場所のカスタマイズ	MessageStats では、UNC パスを使用してファイルサーバーの共有場所を指定します。ログを作成したオリジナルのプロダクション Exchange サーバーに存在していない保存済み追跡ログから情報を収集することができます。Quest MessageStats は、追跡ログディレクトリが Exchange サーバーのデフォルトの場所から移動されている場合のシナリオもサポートします。
サーバーセキュリティコンテキストの指定	MessageStats では、各ターゲットサーバーからデータを収集するのに使用するセキュリティ資格情報を指定することができます。結果として、Quest MessageStats では、Exchange サーバー全体の権限を持つ 1 つのアカウントを持つ必要はありません。
非表示メールボックスと配布リストに関するレポート	MessageStats は、状況に応じて非表示メールボックスについてのレポートと関連するすべての配布リストの機能を提供します。
インフォメーションストアパスの指定	MessageStats では、別のディスクドライブ、SAN、および NAS デバイスなどインフォメーションストアの別の場所を指定することができます。
定期的収集の設定	MessageStats では、管理者がメールボックス、配布リスト、およびパブリックフォルダデータが収集される時間を調整して、ネットワークへの影響を最小限にすることができます。
複数の MessageStats 収集機能	MessageStats コンソールをいくつかの場所でインストールして垂直および水平スケーリングを行うことができます。

ビジネス上の問題

IT 支出を劇的に削減ために、システム管理者と IT マネージャはハードウェア、ソフトウェア、およびサービスへの投資は余儀なくされます。効率的で有効な技術の要求は、メッセージなど広く使用されるシステムでは特に増加しています。電子メールはビジネスの主要な通信ツールとして社内便、ファックス、および電話を遥かに越えています。但し、その従来のものであって、運用の原価を測定し割り当てるのは困難です。

Microsoft Exchange の優れた機能とプライベートとパブリックデータの集中ストレージは、IT 管理者に別の課題をもたらします。投資の細部に渡る適正化や、パフォーマンスと可用性の維持を実現し、IT 投資をビジネスの目的に対応させるための優先度を満たすために、IT プロフェッショナルは新しい管理ツールを求めています。

ソリューション

Quest MessageStats は、システム管理者と経営者に必要な基本的なエンタープライズ全体の情報を提供して、ユーザーの生産性の向上と効果的なメッセージングシステムを実現することができます。MessageStats によって、システム管理者は Microsoft Exchange 追跡ログ、パブリックフォルダ、エンタープライズ全体のディレクトリから毎日夜間に情報収集を簡単に行うことができます。情報の収集と処理はサーバー側のエージェントを必要としないで、Microsoft SQL 技術と配布された業務ベースのアーキテクチャを使用して最も需要が多い環境に合わせるためにスケーリングします。経営者と IT 管理者は便利な Web インターフェイスで適時の関連レポートにアクセスできるレディアクセス権を持っています。

情報と詳細な分析へのアクセスは、十分に情報を得てビジネス決定する上で重要なことです。MessageStats レポートは、完全なカスタマイズと双方向性を提供します。レポートでは、主な傾向と例外のグラフ、さまざまなファイル形式でのエクスポートオプション、およびレポートリンクの電子メールによる配布のスケジュールのサポートを提供します。

MessageStats は産業標準規格の Microsoft インフラソリューションを使用して配布するのを容易にします。Exchange サーバーに配布される収集エージェント、またはデスクトップに配布されるレポートアプリケーションは必要ありません。IT 管理者は、既にあるシステムやリソースを使用してより多くのことを行うことができます。

MessageStats は最小の労力で最大の情報を提供します。

概念的な全体の流れ

MessageStats を理解して頂くために、概念的な説明を次に示します。

一般的には、対話型ジョブ機能を使用してインストールする日の情報の最初のインポートを手動で実行するのに MessageStats を使用します。最初のインポートが終了したら、Quest MessageStats が今後毎日データを収集するように自動化します。次からの各インポートで MessageStats サービスによって収集されたデータは、データベースの既存のデータに追加されます。

Quest MessageStats の中心概念

MessageStats では、Microsoft Exchange サーバーから追跡ログとメールボックス統計をインポート、処理、および保存することができます。Quest MessageStats は、追跡ログのインポート、データのインポート、およびデータの処理を Exchange サーバーのパフォーマンスへの影響を最小限にして効果的に素早く行うことができます。

MessageStats では、Exchange 組織内の複数サーバーと組織のデータを蓄積することができます。アプリケーションによって、これらサーバーのデータをレポートして比較することができます。

MessageStats コンソールでは次を行うことができます。

- Exchange 組織に接続してエミュレートする
- 収集に含むサイト、ルーティンググループ、領域、およびサーバーを定義する
- 定期的にデータ収集するタスクを作成する
- 監査を定義する
- サイト、サーバー、スケジュール、財務、および収集の周期設定を管理する

MessageStats ユーザー

MessageStats ユーザーには次の 2 つの主要グループがあります。

- システム管理者はサーバーの構成、領域の作成、スケジュール自動化 / 定期的なインポート、および手動での追跡ログデータのインポートをすることができます。
- レポートコンシューマやシステム管理者は、収集されたデータを使用して Exchange 利用状況を分析するために MessageStats レポートを使用してレポートを作成し表示します。

Quest MessageStats のインストール

MessageStats はエンタープライズ規模の製品なので、配置する前に適切なサイズにして計画する必要があります。最初にその影響を理解しそれに応じて計画してから既存のプロダクション MessageStats 実装をアップデートしてください。その他質問がある場合は、Quest 営業担当者、または Quest Software 専門サービスにご連絡してください。

サポートされる環境

次の表では、MessageStats がサポートする環境を説明しています。

コンポーネント	サポートされる環境
MessageStats コンソール	<ul style="list-style-type: none"> Windows 2003 SP 1 または Windows 2003 R2 Windows 2000 (Server、または Advanced Server) SP 4 Windows XP (Professional) SP 2 (評価専用) <p>注意: Windows XP SP 2 を使用して評価する場合は、MessageStats レポートが購読リンクへのアクセスを提供するようにポート 80 を開く必要があります。</p>
MessageStats データベースサーバー (MessageStats データベースをホストしているサーバー)	<ul style="list-style-type: none"> SQL Server 2000 SP 4 SQL Server 2005 MSDE SP 3 (テスト、または評価シナリオ専用)
MessageStats レポートサーバー (MessageStats レポートをホストしているサーバー)	<ul style="list-style-type: none"> IIS (インターネットインフォメーションサーバー) 5.0 IIS 6.0
ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> Internet Explorer 6.0
Microsoft Exchange バージョン	<ul style="list-style-type: none"> Exchange 5.5 SP 4 Exchange 2000 SP 3 Exchange 2003 SP 2 Exchange 2007

最良事例

MessageStats をインストールして使用する場合は、次の最良事例の情報も考慮してください。

- MessageStats コンソール、MessageStats データベース、MessageStats レポートコンポーネントは 1 つのコンピュータに常駐するか、または複数のコンピュータに配置することができます。Quest MessageStats コンポーネントを別のコンポーネントにインストールする場合には、MessageStats 管理者ガイドを参照してください。
- Quest Software は、システム管理者が操作手順や定期的なバックアップの実行など Exchange、SQL、および IIS 管理の Microsoft 最良事例に従うことをお勧めします。

インストールのタイプ

MessageStats は次のいくつかのインストールシナリオを提供します。

- 完全インストールは、MessageStats コンソール、MessageStats データベース、および MessageStats レポートを1つのコンピュータにインストールします。
- カスタムインストールは、MessageStats コンソール、MessageStats データベース、および MessageStats レポートを別のコンピュータにインストールします。
- 分散インストールは、カスタムインストールにいくつかのインスタンスを使用して MessageStats コンソール、MessageStats データベース、MessageStats レポートを地理的に分散しているエンタープライズ全体に配布します。



パフォーマンスと拡張性を強化するには、Quest Software 専門サービスに連絡してエンタープライズの正しいインストールシナリオを決定するようにお勧めします。

カスタムまたは分散インストールの手順に関しては、「Quest MessageStats 管理者ガイド」を参照してください。

最小システム必要条件

次の表の必要条件を完全インストールを実行するサーバーが満たしている必要があります。



MessageStats インストーラはリモートでコンポーネントをリモートサーバーにインストールしません。代わりにターミナルサービスを使用してこれらのリモートコンピュータにログし、適切なコンピュータのターミナルサービスから MessageStats インストーラを実行します。

注意: ターミナルサービスを使用している MSDE インストールには既に確認されている問題があります。

ハードウェア要件

種類	最小
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> • 最小速度 2.4 GHz で実行する Pentium 4
RAM	<ul style="list-style-type: none"> • 2 GB
ディスク	<ul style="list-style-type: none"> • 250 MB の空きディスク容量。この領域はネットワークドライブでなくローカルディスクにある必要があります。空き領域の必要条件はデータベースのサイズによって異なります。既存のデータベースをアップグレードする場合は、新規データベースのインストールよりかなり大きな空き容量が必要となります。領域の必要条件は、データベースに書き込む情報の量と記録を保留する期間の長さによっても異なります。 <p>注意: 実装に必要な領域に関しては、Quest Software 技術サポートに連絡して、データベースサイズ見積りツールを入手してください。MessageStats データベースを調整してパフォーマンスを最大にする場合は、お近くの Quest 営業担当者を通して Quest Software プロフェッショナル サービスに連絡してください。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 一時的 Quest MessageStats 追跡ログキャッシュ、アプリケーションログ、タスクドキュメントの十分な領域。このキャッシュのサイズは、サーバー数、各サーバーの追跡ログ数、および各ログのサイズによって異なります。この領域はネットワークではなくローカルドライブにある必要があります。 • 1024x768 ピクセル解像度をサポートするモニター。 • すべての Quest MessageStats 機能を使用するためにポインティングデバイスがインストールされている必要があります。

ソフトウェア要件

種類	最小
オペレーティングシステム	<p>Microsoft Windows 2000 (Server または Advanced Server) SP 4, Windows Server 2003 SP 1, または Windows Server 2003 R2</p> <p>注意: MessageStats は、評価シナリオで Microsoft Windows XP Professional SP 2 にのみのインストールをサポートします。Windows XP SP 2 を使用する場合は、Quest MessageStats が購読リンクへのアクセスを提供できるようにポート 80 を開く必要があります。</p> <p>注意: 中国語、日本語、または韓国語文字を含むレポートを作成する場合は、MessageStats データベースコンポーネントと MessageStats レポートコンポーネントをホストしているコンピュータに東アジア言語パックをインストールする必要があります。これらのレポートを表示するのに使用されるコンピュータにも言語パックをインストールする必要があります。</p>
MAPI	<p>Exchange Systems Manager (ESM) 2000 SP 3 または ESM 2003 SP 2</p> <p>注意: Exchange がインストールされていないマシン上では、Microsoft Outlook がインストールされている必要があります。Exchange がインストールされているマシン上では、ESM 2000 または 2003 をインストールすることをお勧めします。Microsoft は同じコンピュータへの ESM と Outlook のインストールをサポートしていません。Outlook がインストールされている場合は、ESM をインストールする前に Outlook を削除することをお勧めします。MessageStats 5.x をすでに使用している場合は、Outlook を削除して ESM をインストールする前に MessageStats スケジューラ サービスを停止する必要があります。詳しくは、Quest テクニカルサポートに連絡してください。</p>
MessageStats データベースサーバー	<p>SQL Server 2000、SP4、または SQL Server 2005</p> <p>注意: Quest MessageStats はテストと評価シナリオで MSDE 2000 をサポートします。</p>
MessageStats レポートサーバー	<p>IIS 5.0 または IIS 6.0</p> <p>注意: Windows 2000 Professional、または Windows XP Professional を使用する場合は、プログラムの追加と削除を使用して手動で IIS 5.0 を追加する必要があります。</p>
ブラウザ	Internet Explorer 6.0
その他	<p>MDAC (Microsoft Data Access Components) 2.7 SP 1 Refresh</p> <p>LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)</p> <p>追跡ログが有効になっている Exchange 5.5、2000、または 2003 を実行している 1 つ以上のサーバー</p> <p>Microsoft ASP.NET Framework 1.1 または 2.0。一般的な ASP.NET 構成問題の解決策に関する詳細は、29 ページの「付録 A: Microsoft.NET 構成の問題点」を参照してください。</p>

アクセス権限とアクセス許可

MessageStats、情報の収集、およびレポートの作成をインストールするには、アカウントは特定のアクセス許可を持っている必要があります。次の必要条件を満たしているかを確認します。

インストール権限

MessageStats をインストールするのに使用されるアカウントはローカル管理者グループのメンバーである必要があります。

操作の権限

Microsoft Exchange サーバーからデータを収集するために MessageStats で使用されるアカウントは、MessageStats データベースが配置されているサーバーの MessageStats Admin ローカルグループのメンバである必要があります。

インストール中、MessageStats は自動的に次を実行します。

- サービスアカウントをローカル管理者のグループに追加します。
- 次の Microsoft Exchange 権限が与えられます
 - オペレーティングシステム一部として動作する
 - バッチジョブとしてログオン
 - プロセスレベルトークンを置き換える

Microsoft Exchange の権限

タスク収集で使用されるサービスアカウントの固有のアクセス権限と許可が必要です。MessageStats アカウントは、Exchange 環境での次のアクセス権限と許可を持っている必要があります。

Exchange 5.5 と混合モードサーバー用：

- 組織オブジェクトの管理者権限
- Exchange サーバーの管理共有の読み取り権限
- サイトオブジェクトの権限のみを表示
- 構成オブジェクトの管理者権限
- 関連する受信者コンテナのアクセス許可管理（セキュリティが最大の懸念事項である場合）

– または –

構成オブジェクトのアクセス許可管理（セキュリティが最大の懸念事項である場合）

- Exchange サーバーの追跡ログ共有のログファイルへの書き込み権限
- Exchange データベースの priv.edb および pub.edb を含んでいるファイルシステムディレクトリ（ローカル、NAS、または SAN）への読み込み権限

Exchange 2000 および 2003 サーバー用：

- 組織レベルで委任される管理者権限のみの表示
- Exchange サーバーの管理共有の読み取り権限
- Exchange サーバーの追跡ログ共有のログファイルへの書き込み権限
- Exchange メールボックスとすべてのストレージグループのパブリックストアを含んでいるファイルシステムディレクトリ（ローカル、NAS、または SAN）への読み込み権限

Exchange 2007 サーバー用：

- Exchange 表示専用管理者、Exchange 受信者管理者または Exchange 組織管理者グループのメンバーシップ
Exchange 2007 組織のクロスフォレスト管理を設定する方法については、次の記事を参照してください：
<http://technet.microsoft.com/en-us/bb232078.aspx>
- Exchange サーバーの管理共有の読み取り権限
- Exchange サーバーの追跡ログ共有のログファイルへの書き込み権限
Exchange 2007 サーバーでメッセージ追跡を有効にする方法については、次の記事を参照してください。
<http://technet.microsoft.com/en-us/library/aa997984.aspx>. *SERVERLOG* という名の共有を作成する必要があります (*SERVER* をご使用の Exchange サーバーの名前で置き換えます)。これは追跡ログファイルが保存されるディレクトリを指します。
- Exchange プライベートおよびパブリック情報ストアをすべてのストレージグループに含んでいるファイルシステム ディレクトリ (ローカル、NAS、または SAN) への読み込み権限

信頼

次の信頼関係が存在する必要があります。

- 追跡ログが存在するドメインはコンソールが常駐するドメインによって信頼されている必要があります。
- SQL サーバーが属するドメインはコンソールが常駐するドメインによって信頼されている必要があります。
- Quest MessageStats レポート Web サイトが常駐するドメインはコンソールが常駐するドメインによって信頼されている必要があります。
- SQL サーバーが属するドメインはコンソールが常駐するドメインによって信頼されている必要があります。

ロールとアクセス許可

MessageStats インストーラは自動的にロールとアクセス許可を作成します。次のアクセス許可は情報目的のみに含まれます。

MessageStats レポート Web サーバーを内蔵する MessageStats レポートサーバー用：

- MessageStats レポート仮想ディレクトリで、統合 Windows 認証が選択されていることを確認します。
- それぞれが固有のアクセス許可を持っている次の 3 つのローカルセキュリティは、MessageStats レポートがインストールされた時に作成されます。
 - Web Report Administrators
 - Web Report Authors
 - Web Report Users

サイトをアクセスするユーザーがサイトを表示するには、少なくとも Web Report Users ローカルグループである必要があります。セキュリティ階層の維持を考慮してユーザーを Web Report Administrators と Web Report Authors のローカルグループにすることもできます。

- MessageStats データベースをホストしているコンピュータで、サイトをアクセスするユーザーは、Quest MessageStats 管理ローカルグループ (読み取りおよび書き込みアクセス用)、または Quest MessageStatsWeb ローカルグループ (読み取り専用) のメンバである必要があります。

その他の権限

特定の MessageStats 機能を使用するには、次のアクセス権限が必要となります。

アクション	説明	必要なアクセス権限とアクセス許可
MessageStats タスクプロパティでユーザーコンテキストの指定	この権限は MessageStats インストーラによってサービスアカウントに割り当てられません。Windows ではこの権限はすぐに有効なりません。特権を収集する時にサービスアカウントとしてログオンする場合に、変更を適用するにはログオフし再度ログオンする必要があります。	MessageStats コンソールを実行するのに使用されるサービスアカウントおよび / またはアカウントは、別のセキュリティコンテキストを偽装するためにオペレーティングシステムの一部として「動作」する権限が必要です。 さらに、[サーバー プロパティ] タブで指定したユーザーアカウントは MessageStats サーバーの管理者グループのメンバーである必要があります。
MessageStats は Microsoft Operations Manager OnePoint データベースからメールボックスストア可用データを収集することができます	MessageStats が Microsoft Office Manager が Exchange サーバーで収集したメールボックスストア可用データを収集するためには、MessageStats サービスアカウントが MessageStats への十分な権限を持っている必要があります。	MessageStats サービスアカウントは OnePoint ユーザーのメンバーである必要があります。
Quest MessageStats が特定のメールボックスからコンテンツと添付ファイル情報を収集できるようにします。 注意: パブリックフォルダのコンテンツと添付ファイルを収集するには、パブリックフォルダへのアクセス権限が必要です。	コンテンツと添付ファイル情報を収集する MessageStats に対して、各コンテンツおよび添付ファイル収集タスクに指定されたアカウント資格情報が十分な権限を持っている必要があります。 デフォルトでは、メールボックスコンテンツへのアクセス権限は拒否されます。コンテンツおよび添付ファイル情報を収集するメールボックスに関連する各 Active Directory オブジェクトに追加アクセス権限を追加する必要があります。	Exchange 5.5 サーバーの場合： アカウントは、[サイト] ノードと [構成] ノードのサービスアカウント管理アクセス許可を持っている必要があります。 Exchange 2000、2003、または 2007 環境の場合： アカウントは、接続とアタッチメント情報を収集する特定のメールボックスまたはすべてのメールボックスにフル メールボックス アクセスを持っている必要があります。 様々な Exchange サーバーに対する権限を与える方法については、次のセクションを参照してください。

Exchange 2000 または 2003 サーバーのメールボックスへのアクセス権を与える

Active Directory ユーザーとコンピュータ (ADUC) を使用して、1 つのメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を付与できます。また、Exchange システム マネージャ (ESM) を使用して、すべてのメールボックスに対するアクセス権を付与できます。Exchange 2000 または Exchange 2003 サーバーのメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を与えるには、次のステップに従います。

ADUC を使用して 1 つのメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を与えるには

1. ADUC MMC スナップイン (コンソール) を開きます。
2. 収集するメールボックスに関連する Active Directory オブジェクトのユーザーまたはグループプロパティを開きます。
3. [Exchange の詳細設定] タブを選択し、[メールボックスの権利] をクリックします。
4. [許可] ダイアログボックスで [詳細設定] をクリックします。
5. コンテンツとアタッチメントの収集に使用されるアカウントにフル メールボックス アクセス権を追加します。

ESM を使用してすべてのメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を与えるには

1. Exchange システム管理を使用して Exchange サーバーのプロパティを開きます。
2. [セキュリティ] タブを選択します。
3. コンテンツとアタッチメント収集に使用されるアカウントに送信者権限と受信者権限を与えます。

Exchange 2007 サーバーのメールボックスへのアクセス権を与える

PowerShell cmdlets を使用して Exchange 2007 サーバーのメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を与えるには、次のステップに従います。必要なアクセス権限を追加する 2 つの方法があります。

PowerShell を使用して特定のメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を与えるには

1. Windows PowerShell を開きます。
2. Windows PowerShell で Add-MailboxPermission コマンドを実行します。
例えば、メールボックスが “My Mailbox” という名前で、アカウントが “Trusted User” という名前の場合は、コマンドは次のようになります：

```
Add-MailboxPermission "My Mailbox" -User "Trusted User" -AccessRights FullAccess
```

PowerShell を使用してすべてのメールボックスに対するフル メールボックス アクセス権を与えるには

1. Windows PowerShell を開きます。
2. Windows PowerShell で Add-ADPermission コマンドを使用して、「送信者」権限と「受信者」権限を与えます。
例えば、サーバーが “MyServer” という名前で、アカウントが “Trusted User” という名前の場合は、コマンドは次のようになります：

```
Get-MailboxServer MyServer | Add-ADPermission -User "Trusted User" -ExtendedRights Send-As
Get-MailboxServer MyServer | Add-ADPermission -User "Trusted User" -ExtendedRights Receive-As
```

Quest MessageStats の起動

MessageStats をインストールする前に、最小必要条件を確認して一致していることを確認します。詳しくは、「[最小システム必要条件](#)」(14 ページ)。これらの必要条件を満たしていない場合は、MessageStats は機能しません。

MessageStats のインストール処理は、アップグレードの手順とは異なります。状況に合った手順に従うようにしてください。

MessageStats のインストールについて

MessageStats コンソールをインストールする場合に、MessageStats Database Server (SQL 2000, SQL 2005、または MSDE) と IIS 5.0 サーバーがコンソールをインストールするコンピュータに存在する必要があります。カスタムインストールを実行する場合は、MessageStats データベースサーバーと MessageStats レポートサーバーが同じコンピュータにないようにしてください。

MessageStats では、次の 3 つのインストールシナリオが使用できます。

インストール	説明
完全 (初期設定)	MessageStats コンソール、MessageStats データベースサーバー、および MessageStats レポート Web サイトが 1 つのコンピュータに常駐します。完全インストールオプションを選択する場合は、すべてのコンピュータはローカルのドライブ C にインストールされます。C ドライブ以外のドライブの 1 つのサーバーにすべてのコンポーネントをインストールする場合は、カスタムインストールを実行します。
カスタム (複数コンピュータ)	MessageStats コンソールが個別のコンピュータに常駐し、別のコンピュータの MessageStats レポート Web サイトと MessageStats データベースサーバーをアクセスします。 注意: カスタムインストール手順に関しては、「 <i>MessageStats 管理者ガイド</i> 」を参照してください。
配布 (複数コンピュータ、複数インスタンス)	MessageStats コンソールの複数のインスタンス、MessageStats データベース、および MessageStats レポートが配布され、データは領域データベースからメインの会社データベースに複写されます。 注意: 配布された MessageStats の必要条件の判断やデータベースの複写方法に関しては、お近くの Quest 営業担当者を通して Quest Software プロフェッショナル サービスにご連絡ください。



大規模のエンタープライズはパフォーマンスと拡張性を強化するためにカスタムインストールで MessageStats を実行することをお勧めします。組織に適切なインストールシナリオを決定する場合のご質問は、Quest Software 専門サービスに連絡してください。

インストール中、MessageStats インストーラは自動的に次を作成します。

項目	説明
5 つのローカルグループ	Quest MessageStats 管理者 Quest MessageStats Web Web レポート管理者 Web レポート作成者 Web レポートユーザー

項目	説明
1つのデータベースユーザー (SQL Server ログイン)	MessageStats 管理者ローカルグループ MessageStats Web ローカルグループ 注意: これらログインはデータベースのアクセスを許可するセキュリティコンテキスト要素に関連します。
1つのデータベースロール	MessageStats_管理者ロール MessageStats_Web ロール

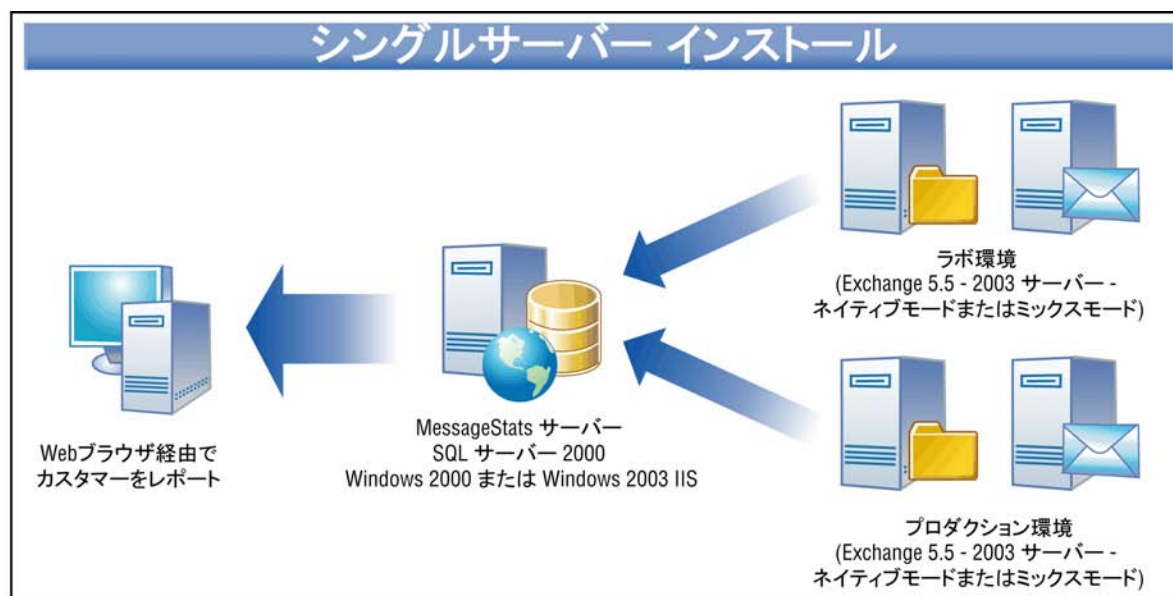
完全インストールの実行

[インストールを終了]を選択する場合は、MessageStats データベース、MessageStats レポート、および MessageStats コンソールが1つのコンピュータにインストールされます。この構成は大規模な組織や多数のファイルがコピーおよび処理されるシナリオには適切でないかもしれません。



完全インストールオプションを使用してローカルのドライブ C にのみ MessageStats をインストールすることができます。ドライブ C 以外のドライブに1つのサーバーの3つすべてのコンポーネントをインストールするには、カスタムインストールオプションを使用します。

次の図は、完全インストールを説明しています。



MessageStats の完全インストールを実行するには

- ローカル管理特権を使用してシステムにログオンします。
ローカル管理者アカウントはローカル管理者グループやドメイン管理者グループのメンバーである必要があります。
- MessageStats CD の **autorun.exe** ファイルをダブルクリックして、[インストール] タブを選択します。
- Quest MessageStats** をクリックし、言語を選択してから [OK] をクリックします。
- [次へ] をクリックします。

5. ライセンス同意書を読んで、**[同意します]** チェックボックスを選択します。
チェックボックスを選択して、**[次へ]** ボタンを有効にします。
6. **[次へ]** をクリックして**[インストールの種類を選択してください]** ダイアログボックスを表示します。
7. **[完了]** をクリックします。
8. MessageStats データベースと MessageStats レポートサーバーが正しいかを確認します。
これは完全インストールなので、これらフィールドは自動的にローカルコンピュータ名を表示します。
9. **[次へ]** をクリックします。
10. アプリケーション ログに共有を作成すべきかどうかを指定して、**[次へ]** をクリックします。
11. デフォルトの Web サイトを使用するか、別の Web サイトを特定するかを指定して、**[次へ]** をクリックします。
12. 購読通知と発信者フィールドに表示される名前を送信するのに使用されるメールサーバーを入力し、**[次へ]** をクリックします。



インストーラで説明構成を完了しない場合は、**[ファイルのコンフィギュレーション ボタン]** | **[サブスクリプション]** 機能を使用して MessageStats レポートコンポーネントに電子メールと発信者を定義することができます。

13. 該当する場合は、サービスセットアップウィンドウに次の情報を入力します。

インターフェイスの要素	説明
ユーザー名	ローカルコンピュータにログオンするユーザー名を表示します。このフィールドはドメイン ¥ ユーザー名形式を必要とします。
パスワード	ユーザー名に対応するパスワードを入力するように要求されます。
ユーザー名の認証	パスワードとユーザー名を認証する必要があることを表します。

14. **[インストール]** をクリックします。
15. MessageStats データベースセットアップウィザードに従って操作します。



MessageStats データベースセットアップウィザードの操作方法に関しては、**「MessageStats データベースをセットアップするには」(23 ページ)**。

16. 以前に MessageStats 6.0.x をインストールして既存のタスクがある場合は、既存のタスクを移行するかどうかを指定する必要があります。すぐにタスク移行ツールを開始するか、キャンセルして後でツールを実行するかを選択することができます。
MessageStats 6.1 を使用する前に既存のタスクを移行する必要があります。但しタスク移行は、スケジューラ サーバーの構成と既存のタスクの数によって時間がかかる場合があります。詳しくは、25 ページの「MessageStats 6.0.x からの移行」を参照してください。
17. **[終了]** をクリックしてインストールを完了し、インストーラを終了します。

- または -

[説明ファイルの表示] をクリックして、現在のリリースのリリースノートファイルを参照します。

18. MessageStats を [24 ページ](#) の手順に従って登録します。



MessageStats はインストールウィザード内から自動的にデータベースセットアップウィザードを起動します。既存の MessageStats 5.x データベースがある場合は、インストーラはデータベースを上書きするように要求します。

インストール処理中にデータベースウィザードをキャンセルすると、インストーラはデータベースを更新しません。MessageStats を正しく機能させるには、データベースは MessageStats コンソールと同じバージョンである必要があります。

MessageStats データベースのインストール

MessageStats database をインストールする場合に、MessageStats は自動的に Windows NT 認証を使用するデータベースを構成します。現在、SQL Server 認証オプションはインストール中は利用できません。データベースをアクセスするのに SQL Server 認証を使用する場合は、Quest Software 技術サポートに連絡してください。

MessageStats データベースを正常にインストールするために、SQL Server のデータベース作成とメンテナンス権限を持っている必要があります。

MessageStats データベースをセットアップするには

1. MessageStats データベースセットアップウィザードの用こそページを読んで、**[次へ]** をクリックしてください。
2. データベース構成設定画面に次の情報を入力します。

要素	説明
[MSDE/SQL サーバー]	MessageStats データベースサーバーの場所を表します。このフィールドはローカルサーバーの既定値になり、場所を変更することができません。
[データベース名]	追跡ログとメールボックス統計データを保存するデータベースの名前を表します。このフィールドは読み取り専用です。
[以前のビルドを移動]	既存のデータベースを更新するかどうかを決定します。
詳細情報	<p>既存のデータベースを更新しない場合は、詳細情報のチェックボックスを選択することができます。このオプションによって、データベースおよびログのファイルサイズと増加率パラメータを構成することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [詳細情報] チェックボックスを選択すると、データベースファイル/ログ設定画面に表示されます。 • [詳細情報] チェックボックスを選択解除して[次へ] をクリックすると、データベースサマリー画面が表示されます。

3. **[次へ]** をクリックします。
[以前のビルドを移行] ボックスを選択解除して [詳細情報] オプションを選択している場合は、手順 4 へ進んでください。
[以前のビルドを移動] ボックスを選択した場合は、手順 5 に進みます。
4. データベース ファイル設定とログ ファイル設定のタブを使用して適切なデータベース サイズ設定ログ ファイル サイズを選択します。
これらのタブをデータベースのパス、サイズ、および増加率パラメータを設定するのに使用することができます。ログ ファイルと増加率パラメータを定義することもできます。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. **[選択したオプションの概要]** 画面を確認し、**[開始]** をクリックします。

7. インストールの結果を確認します。
データベースの更新と移行が正常に終了しなかった場合は、MessageStats は自動的にデータベースの前のバージョンにロールバックします。MessageStats データベースと MessageStats 製品を正しく動作させるには同じバージョンである必要があります。
8. [完了] をクリックして終了します。
ウィザードの最後のページで確認するインストール結果は、[完了] をクリックすると `Qinstaller.log` に追加されます。



以前に MessageStats 6.0.x をインストールして既存のタスクがある場合は、既存のタスクを移行するかどうかを指定する必要があります。データベースのインストールが正常に終了しない場合は、タスクの移行を行わないでください。

MessageStats ライセンス

MessageStats を起動および使用する前に、ライセンス情報を完了する必要があります。Quest Software サポートはアクティベーションキーと一緒に供給されます。アクティベーションキーがない場合は、MessageStats を起動および使用することができません。インストールまたはアップデートを開始する前にアクティベーションキーがあるか確認してください。

MessageStats のライセンスを入手するには

1. ライセンスファイル (`xxx-xxxx.asc`) を MessageStats コンソールがインストールされているコンピュータのデスクトップや別の便利な場所にコピーします。
2. MessageStats コンソールを起動します。
3. MessageStats サーバーに接続します。
複数の MessageStats サーバーがある場合は、各サーバーに対して手順 4 ~ 6 を実行します。
4. サーバーのノードで右クリックし、[ライセンス] をクリックします。
 - トライアルライセンスがインストールされていない場合は、[ライセンスを追加] をクリックします。
 - トライアルライセンスがインストールされている場合は、[ライセンスを更新] をクリックします。
5. 手順 1 でコピーしたライセンスファイルを検索します。
6. ライセンスを選択し、[OK] をクリックします。

MessageStats のアップグレード

MessageStats 6.1 はリリース 5.x からのアップグレードパスをサポートしません。必ず、旧バージョンの MessageStats を削除してバージョン 6.1 をインストールしてください。MessageStats は、5.x の MessageStats データベースから新しい MessageStats データベースにすべてのデータベースコンテンツを移行します。

5.x から 6.x にカスタムインストールをアップグレードするには

1. [プログラムの追加と削除] を使用して古いコンポーネントをアンインストールします。
2. *MessageStats 管理者ガイド* の Quest MessageStats のインストール オプションの章で説明されている手順を使用して新しいコンポーネントをインストールしてください。

MessageStats は、リリース 6.0.x からリリース 6.1 へのアップグレードをサポートしています。この場合は、旧バージョンをアンインストールする必要はありません。MessageStats 6.1 をインストールするだけで、自動的に MessageStats 6.0.x はアップグレードされます。リリース 6.1 のタスク管理の改善によって、既存のタスクを移行する必要があります。MessageStats のインストールが終了すると、タスク移行を開始するように要求されます。詳しくは、[25 ページの「MessageStats 6.0.x からの移行」](#)を参照してください。

MessageStats 5.x からの移行

MessageStats 6.1 をインストールすると、統合された移行ウィザードが自動的に MessageStats 5.x 構成の設定を移行して、MessageStats 5.x 収集動作を配置し構成します。移行後次のようになります。

- 領域に基づいているすべての 5.x タスクは、領域を形成しているサイト / 管理グループおよびサーバーに基づくようになります。
- 既存のサイト / 管理グループとサーバーの一般的な収集操作は新しいデフォルト収集タスクの一部になります。
- 既存のサイト / 管理グループとサーバーパブリックフォルダの収集操作は新しいパブリックフォルダタスクの一部になります。

複雑な MessageStats インストールシナリオの大規模の組織の収集動作に関して質問がある場合は、Quest 専門サービスに連絡してください。お近くの Quest 営業担当者を通してプロフェッショナル サービスに連絡してください。

MessageStats 5.x 収集動作を移行する場合は、次のことに注意してください。

- MessageStats は組織と資格情報のそれぞれ独自の設定するための 1 つのタスクを作成します。
- MessageStats 5.x リモートタスク実行サーバーの設定は移行されません。すべての収集タスクは中央 MessageStats サーバーに配置されます。
- すべてのデフォルトスケジュールは 00:15 UTC 時に毎日実行することからリセットされ、すべてのパブリックフォルダタスクはこれらの 5.x 設定に応じて実行するように設定されます。
- 移行されたタスクの名前付けの規則には次が含まれます。タスクの目的、自動または対話型、関連する Exchange 組織の名前、およびタスクの資格情報（それらがそれらが全般のデフォルトから異なる場合）。

MessageStats 6.0.x からの移行

リリース 6.1 のタスク管理の改善によって、MessageStats 6.0.x の既存のタスクを移行する必要があります。インストール中に、タスク移行を開始するように要求されます。

MessageStats スケジューラ サービスの構成と移行する必要がある既存のタスク数によって、タスクの移行の処理時間が数時間になる場合もあります。インストール処理中にタスクの移行をキャンセルして、後で別の時に実行することもできます。

既存のタスクが移行されるまで MessageStats 6.1 を使用することができません。



データベースのインストールが正常に終了しない場合は、タスクの移行を行わないでください。

タスク移行ツールを別に行うには

- MessageStats コンソールをインストールするコンピュータで、C:\Program Files\Quest Software\MessageStats から MigrateTasks.exe ツールを実行します。
タスク移行の進行状況は、ファイルが移行されながら表示されます。

タスク移行ツールの動作

MigrateTasks.exe ツールが実行すると、次のタスクが実行されます。

- MessageStats スケジュール サービスに接続して、データベースの位置を決定します。
- タスクが現在実行していないことを確認します。スケジューラ サービスがタスクを実行する場合に、ツールは 1 分間待って再試行します。スケジューラ サービスが 60 分間連続してタスクを実行する場合は、タスク移行ツールを起動できません。
- 停止してスケジューラ サービス無効にします。
- タスク ストレージとタスク インスタント ストレージに接続します。
- タスクとタスクインスタンスをデータベースに移行します。
- 次の名前前の圧縮ファイルのタスクとタスクインスタンスをアーカイブします：
tasksarchiveYYYYMMDDHHMMSS.zip。デフォルトでは、ファイルは C:/ Program Files/Quest Software/MessageStats/tasks のパスに置かれます。
- MessageStats タスク フォルダから処理済みタスクインスタンス ファイルを削除します。
- MessageStats スケジューラ サービスを有効にして再起動します。

トラブルシューティング

次のエラー状況がタスクの移行中に報告されます。

エラー メッセージ	意味
タスクの移行の問題 タスクインスタンスの移行の問題 タスクインスタンスのアップデートで発生する状態の問題	MessageStats タスク フォルダのタスクファイルを削除した場合にこれらメッセージが表示されます。タスクの移行は続行しますがタスク ドキュメントの付属に関連して発生する状態は不正確になります。
タスクのプロパティ X の移行の問題 タスクインスタンスのプロパティ X の移行の問題 タスクインスタンスのアップデート状態の問題 タスクインスタンスのアップデート処理の問題	これらエラーは、タスク ドキュメントにエラーがある場合、またあ h データベース インストール中にエラーが合った場合に表示されます。タスク移行は問題のある情報に対して機能しないで続行します。

タスク移行が突然停止した場合は、Quest MessageStats スケジューラ サービスは無効な状態のままになります。この場合には、スケジューラ サービスを有効すればタスク移行を再起動することができます。

Quest MessageStats の実行

MessageStats コンソールを [開始] | [プログラム] | [Quest Software] | [Quest MessageStats] | [MessageStats] を使用して起動する場合は、Quest MessageStats は MessageStats データベース接続が存在するかを確認します。接続が存在する場合は、MessageStats コンソールは自動的に既存の構成設定を読み込みます。接続が存在しない場合は、データベース接続を構築する必要があります。

Quest MessageStats を起動するには

- [開始] | [プログラム] | [Quest Software] | [Quest MessageStats] | [MessageStats] の順で選択します。

MessageStats の削除

コンピュータから完全 MessageStats インストールを削除するには

1. [開始] | [設定] | [コントロール パネル] | [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
2. プログラムリストから **Quest MessageStats** を選択し、[削除 (R)] をクリックします。
3. MessageStats を削除するかを確認します。



サービスまたは MessageStats レポート Web サイトサポートファイルを削除するコンピュータを再起動するように要求される場合があります。

MessageStats の使用

MessageStats をインストールした後、Exchange サーバーから情報を収集することができます。MessageStats は、複雑な Exchange 環境多数の複合実装をサポートします。但し最も基本的なレベルで、MessageStats は次の 3 つの基本手順があります。

ステップ	説明
Exchange 組織への接続	<p>MessageStats は、追跡ログと Exchange 情報を収集する MessageStats の入力ポイントとして動作する Exchange サーバーを自動的に検出します。</p> <p>別のサーバーを識別するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ツリービューで [Exchange 組織] ノードを選択します。 2. 右クリックして [接続] を選択します。 3. ローカル Exchange サーバー名を入力し、[OK] をクリックします。
収集タスクの構成	<p>タスクは収集する情報と収集する時間を定義します。</p> <p>最初の収集タスクを作成するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 列挙する Exchange 組織、オブジェクト、またはコンテナを含むフォルダを選択します。 2. 右クリックして [タスクを作成] を選択します。 3. [初期設定収集] を選択します。 4. 残りのウィザードページを通して [次へ] をクリックします。
タスク進行状況の表示	<p>構成されたタスクの進行状況を表示することができます。この手順は必須ではありません。</p> <p>ジョブの進行状況を表示するには、ツリービューから [タスク] ノードをクリックしてタスクを選択します。</p>
その収集に基づいてレポートを表示します	<p>Web ベースの MessageStats レポートインターフェイスを使用して、作成した収集タスクに基づいてレポートを表示します。</p> <p>完了した収集タスクに基づいているレポートを表示するには</p> <ul style="list-style-type: none"> • ツリービューから [MessageStats レポート] ノードを選択し、レポートを選択します。 - または - <p>[開始] [プログラム] [Quest Software] [Quest MessageStats] [MessageStats] の順でクリックします。</p>

段階的な説明

MessageStats には次の 2 つのメイン機能があります。追跡ログとその他 Exchange 情報のインポートとインポートされたデータに基づいている適切なレポートの作成。この段階毎の説明で、MessageStats の最も一般的な使用方法を理解します。

タスクの構成

タスクは追跡ログと Exchange ソース収集される情報と収集が繰り返される間隔を定義します。Exchange オブジェクトやコンテナノードを選択し、選択したオブジェクトに基づいたタスクを作成してタスクを作成することができます。

MessageStats は、広範囲で長い収集時間を防ぐために大きなパブリックフォルダと配布リスト収集のいくつかを無効にする [初期設定収集] オプションも提供します。これらの収集を有効にするか新しいタスクを作成して残りノ収集を含むことができます。

最初の収集タスクを作成するには

1. 列挙される Exchange 組織を含むフォルダを選択します。
2. 右クリックして [タスクを作成] を選択します。
3. [初期設定収集] を選択します。
4. [次へ] をクリックします。

追加の収集タスクを作成するには

1. Exchange オブジェクトを含むフォルダ、またはタスクの基本として使用するコンテナを選択します。
2. 右クリックして [タスクを作成] を選択します。
3. タスクテンプレートを選択します。
4. すべての追加タスク構成を完成します。
5. [次へ] をクリックします。

MessageStats レポートを使用する

MessageStats レポートは、MessageStats から収集するデータを使用してレポートを表示します。MessageStats レポートを使用して再構成したレポートを表示したり、新しいレポートを作成することができます。



中国語、日本語、または韓国語文字を含むレポートを作成する場合は、MessageStats レポートをホストしているコンピュータに東アジア言語パックをインストールする必要があります。これらのレポートを表示するのに使用されるコンピュータにも言語パックをインストールする必要があります。

MessageStats レポートを表示するには

1. [開始] | [プログラム] | [Quest Software] | [MessageStats] | [MessageStats レポート] の順で選択します。
- または -
[MessageStats レポート] ノードを MessageStats コンソールで選択します。
2. 利用可能なリストから表示するレポートをクリックします。

付録 A: Microsoft.NET 構成の問題点

いくつかの Microsoft 環境で、MessageStats が正しい情報のレポートが作成できない Microsoft.NET を伴う構成の不具合が発生する可能性があります。エラーは、Microsoft.NET Framework バージョン 1.1 または 2.0 は MessageStats レポートをホストする IIS サーバーにインストールする必要があり、Microsoft ASP.NET を MessageStats レポートを含む仮想ディレクトリで有効にする必要があることを示しています。

Microsoft.NET Framework バージョン 1.1 または 2.0 がインストールされていて、ASP.NET が有効になっている場合は、ASP.NET の IIS マッピングを修復する必要があります。次の手順は、Microsoft サポート技術情報 306005 に基づいています。Microsoft ASP.NET を構成する手順を使用してください。

ASP.NET の構成マッピングを修復するには

1. Aspnet_regiis.exe ユーティリティを次の手順で実行します。

- **[開始]**をクリックし、**[実行]**をクリックします。
- **[開く]**テキストボックスにコマンドを入力し、**[OK]**をクリックします。
- コマンドプロンプトで次を入力します。

```
"%windir%\Microsoft.NET\Framework\%version%\aspnet_regiis.exe" -i
```



このパスで、バージョンはサーバーにインストールされている .NET Framework ディレクトリバージョンを表します。例のプレースホルダを実際のバージョン番号で置き換えます。

- **[OK]**をクリックします。

2. ASP.NET 2.0 のマッピングを構成する場合は、ステップ 4 に移動します。

– または –

ASP.NET 1.1 のマッピングを構成する場合は、ステップ 3 に移動します。

3. Aspnet_isapi.dll を次の手順で登録します。

- **[開始]**をクリックし、**[実行]**をクリックします。
- **[開く]**テキストボックスで、次を入力します。

```
regsvr32 %windir%\Microsoft.NET\Framework\%version%\aspnet_isapi.dll
```



Regsvr32 が登録の結果を返します。

- **[OK]**をクリックします。

4. IIS サービスを次の手順で再起動します。

- **[開始]**をクリックし、**[実行]**をクリックします。
- **[開く]**テキストボックスに **iisreset** と入力して、**[OK]**をクリックします。

エラーメッセージがそれでも表示され、ホストの IIS サーバーが Windows 2000 ドメインコントローラである場合は、Microsoft サポート技術情報の ID:824308 を参照してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;824308>

64 ビットオペレーティングシステムでのレポートの実行

MessageStats レポートは 64 ビットオペレーティングシステムにインストールすることができますが、MessageStats レポート が正しく動作するように IIS を構成する必要があります。

64 ビットオペレーティングシステムで、32 ビットモードで実行するように IIS を構成する必要があります。ASP.NET 1.1 または ASP.NET 2.0 のいずれかの 32 ビットバージョンを実行するように IIS を構成する方法に関しては、Microsoft サポート技術情報 894435 (<http://support.microsoft.com/?id=894435>) を参照してください。

この手順は、同じ IIS Web サーバーにインストールされた他の Web アプリケーションとの互換性の不具合が発生する可能性がありますので、その他の Web アプリケーションなしで MessageStats レポート のみがサーバーで起動するようにお勧めします。



32 ビットモードで実行するように IIS を再構成するのと同じサーバーにインストールされている他の Web アプリケーションとの互換性の不具合が発生する場合があります。特に 32 ビットモードで実行するように IIS を再構成すると、SQL Server 2005 Web Services との互換性の不具合が発生します。Quest は、64 ビットオペレーティングシステムに MessageStats レポートをインストールすることをお勧めしません。